

# チーム学習の実践事例の報告

2013年6月4日

福山大学学内研究会「チーム学習とは？」の資料から

特定非営利活動法人学習開発研究所

望月 (現姓 古田) 紫帆

# 主な仕事



大学・教職科目で、協働で授業開発するための実践力養成プログラムを開発・実施



若手教員のための協働自律的な  
資質能力向上プログラムの開発・実施



授業設計のリフォーム講座

# 主な仕事

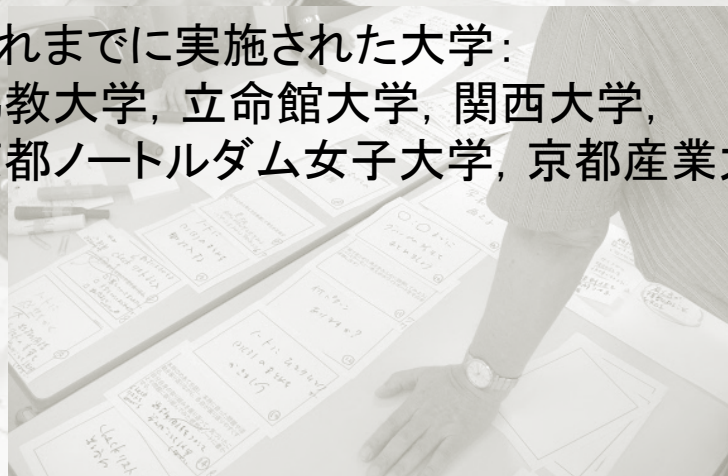


若手教員のための協働自律的な  
資質能力向上プログラムの開発・実施



大学・教職科目で、協働で授業開発する  
ための実践力養成プログラムを開発・実施

これまでに実施された大学：  
佛教大学，立命館大学，関西大学，  
京都ノートルダム女子大学，京都産業大学等



授業設計のリフォーム講座

# 佛教大学でチーム学習の 取り組みがはじまった理由

1999年に西之園晴夫  
(現・NPO法人学習開発  
研究所代表)が教育学部  
教授に就任。

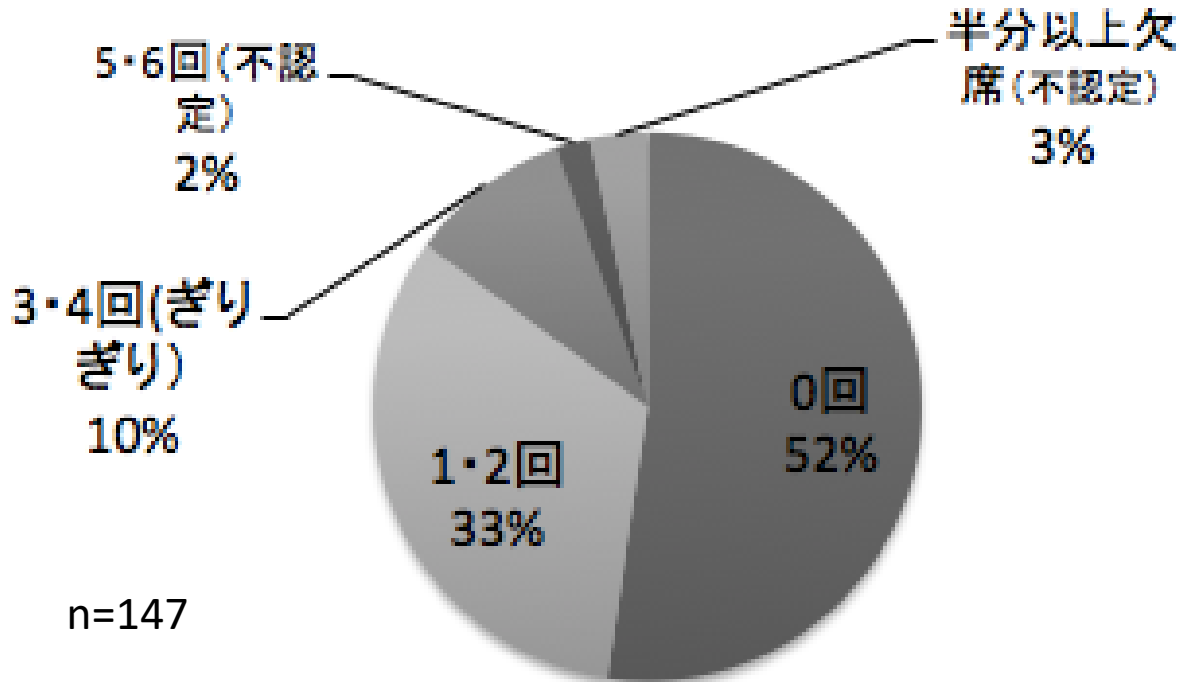
多人数が受講する「教  
育方法学」を担当するこ  
とになる。

**9割の学生を寝させない  
授業を目指す。**



# 現在の結果

2012後期A大学欠席回数



実際の  
←欠席回数

自分の出席率  
はよいと思う  
学生の割合

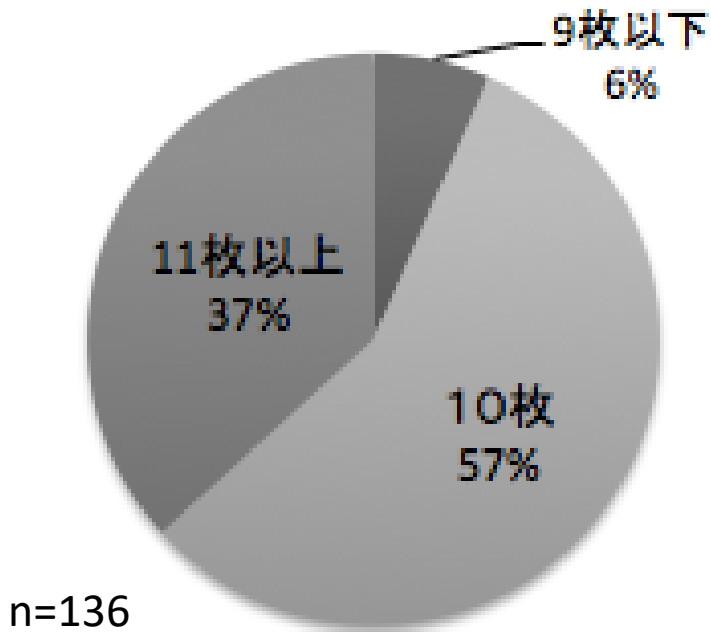


▼2012年度後期FD授業評価アンケート 他の科目との比較

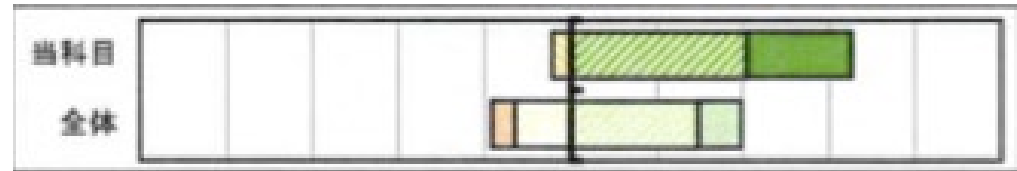
当科目	他の科目もしっかり出席していると感じている割合が高ので、あまり差はない	そう思う	多いにそう思う
全体			

# 現在の結果

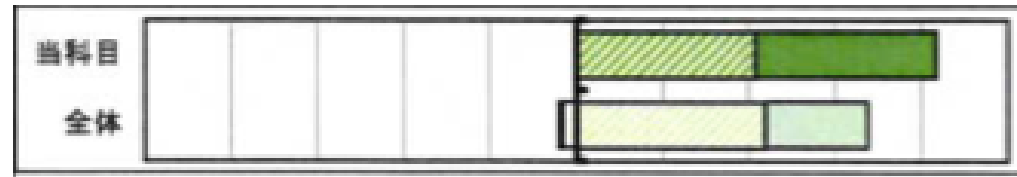
2012後期A大学最終レポート枚数



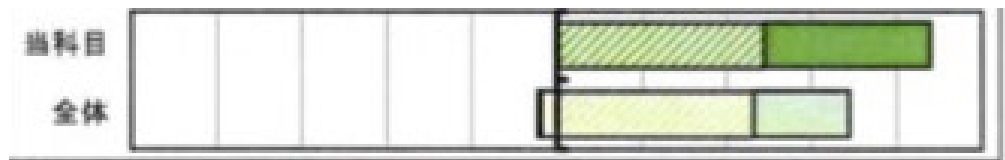
1(3)1回の授業につき予習・復習をした



3(3)自分で調べ、考える姿勢がもてた



1(5)熱心に授業に取り組んだ



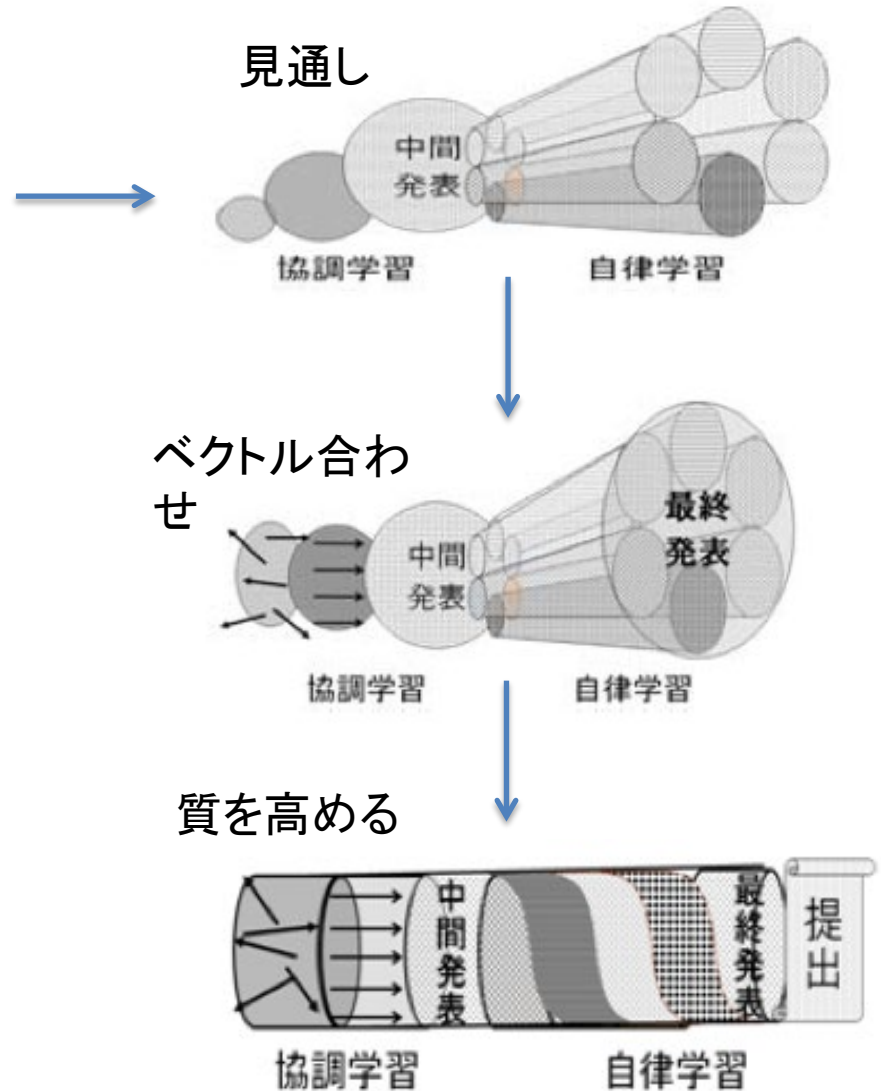
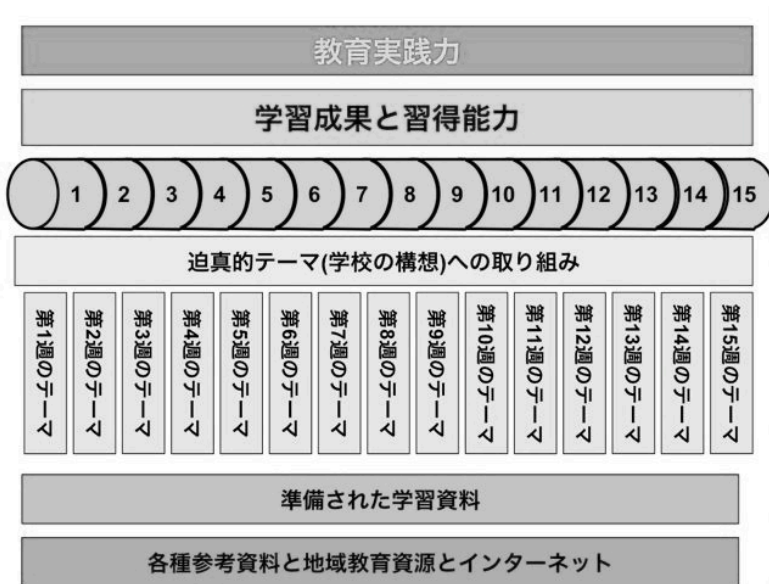
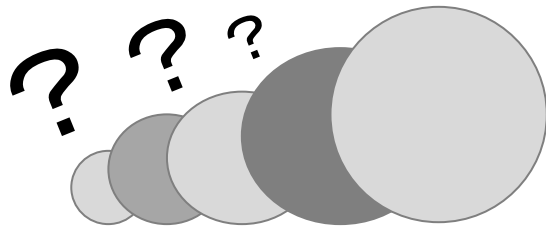
# 実施科目「教育方法学」

## 授業の流れとゴール

1	授業全体の説明、学生の特性調査	
2	チームづくり	
3	理想を描く・学ぶ意味をもつ	
4	「理想の未来の学校」	
5		
6	学校説明会	ショートレポート
7		
8	説得性を高める	ショートレポート
9	学習指導設計と学習評価設計	
10	「多様な学習者が主体的に読解力を	ショートレポート
11	高めるためには？」	
12		チームレポート
13	授業参観	
14	先輩のレポートから学ぶ	最終レポート
15	最終成果の相互評価	



# 改良モデル



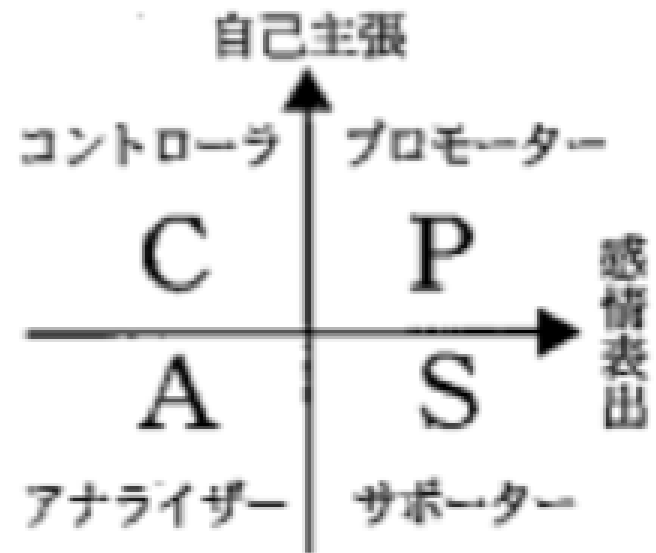
1	授業全体の説明、学生の特性調査	
2	チームづくり	
3	理想を描く・学ぶ意味をもつ	
4	「理想の未来の学校」	
5		
6	学校説明会	ショートレポート
7		
8	説得性を高める	ショートレポート
9	学習指導設計と学習評価設計	
10	「多様な学習者が主体的に読解力を	ショートレポート
11	高めるためには？」	
12		チームレポート
13	授業参観	
14	先輩のレポートから学ぶ	最終レポート
15	最終成果の相互評価	

# チームづくり

## 多様性 責任感 貢献

役割

コミュニケーションスタイル



司会、情報技術、学習報告  
計画管理、記録整理、音読確認

鈴木義幸「熱いビジネスチームをつくる4つのタイプ」  
ディスカヴァートウェンティワン

# チームづくり

## 多様性 責任感 貢献

01-4

### 私のプロフィール

時間内提出

● 全ての項目に回答して、時間内に提出してください。

ふりがな	性別	学籍番号	所属学科	回生
氏名				

■ **取得希望免許（校種と担当教科を1つだけに○をつけてください）** ※複数の場合は第1希望を選択

①小学校 ②中学校（教科 \_\_\_\_\_ ） ③高等学校（教科 \_\_\_\_\_ ）  
 ④養護学校 ⑤幼稚園・保育所 ⑥その他（ \_\_\_\_\_ ）

■ **教員になりたい度（1つだけ○をつける）** → なりたい・できればなりたい・わからないが免許はとる

■ **情報技術（それぞれの項目で該当するものを1つだけ選んでください）**

自宅にPCが	ある・使う	ある・使うのが苦手	ない
ケータイ	よく使っている	ときどき使っている	使っていない
学習支援システム	利用したことがある	利用したが理解できない	今回はじめて

※「学習支援システム」はweb上でレポート提出や質問メールを送って学習するシステムすべてを対象とします。

■ **メンバーの一人ひとりがそれぞれのポジションを持ってチームに貢献していきます。**  
**あなたはチームの中で、どの役割(ポジション)を担うことができますか。(資料01-2参照)**

※第2希望まで記入しなかった場合は、全体で一番希望の少なかった役割に回すことがあります。

司会係： チーム学習の進行に責任をもち、討議が円滑になるように配慮します。	第1希望
情報技術係： メンバーがコンピュータやインターネットなどを使う時に支援します。また役立つ情報を収集します。	第2希望
記録整理係： 討議の内容を記録しながら、討議の流れを整理します。	
計画管理係： メンバーの連絡先や学習計画を管理します。連絡網の草紙です。	
音読確認係： 毎回配布資料を音読し、課題を理解していないメンバーがいなかの確認を徹底します。	
学習報告係： 講義終了後、記録整理係と協力して学習記録とメンバーの参加状況を携帯やPCから指導者に報告します。	

■ この授業では主体的な学習が求められます。最終成果を100点満点で評価するとき、あなたはどの位の成果を期待して参加しますか。該当するもの1つだけを選択してください。

( )90点台 ( )80点台 ( )70点台 ( )60点台

■ **01-3 コミュニケーションタイプテストで一番高い数値のタイプ1つに○をつけてください。**  
 (★複数タイプで同じ数値がでたときは、その中から自分に一番近いと思われるものを選択してください。)

コントローラー・プロモーター・サポーター・アナライザー

■ チームで学ぶということについて、近いものを1つだけ選んでください。

( ) 経験がある。得意である。( ) 未経験。頑張ろうと思う。( ) なんとも思わない。  
 ( ) 経験がある。苦手。( ) 未経験。本音を言うかと面倒くさそう。( ) 履修をやめず

■ 実習や部活で欠席する予定が ( ある ・ ない )

> 欠席の理由と決定している回数と日数をお知らせください。( \_\_\_\_\_ )

■ 自分の長所で紹介したいこと(次週の演習でチーム内で相互紹介する時に使用します。)

# チームづくり

## 多様性 責任感 貢献

自分たちで学ぶ場所を選び  
終了時間を意識しながら  
すすめる

「わからない」  
が気軽に  
言い合える



資料等は自分たちのチームのファイルで管理

### Lesson10 ゴール

- ・ 学習評価方法（何がどれだけできたかをどのようにして確認するか）を確定する
- ・ 参観日の準備で誰が何に取り組むかを考え前倒しで準備を進める（とくに教材）

13:40

全体の質問、補足事項等のシェア

13:20

情報技術係 情報交換

14:00

学習報告チェック、  
チーム内で学んだことや次回までに取り組む  
ことを確認、作業の終了

# チームづくり

## 多様性 責任感 貢献

### レポートより

「『私にはできない、ありがとう』という言葉を受けて、自分の存在意義が感じられた。チームの役に立っていることが感じられた。」

「最も大きく感じた事は、みんなの協力なしには私の役割は果たせなかつただろうという事である。」

# チームづくり

## 多様性 責任感 貢献

### レポートより

「タイプが違うからこそ、まったく違う考えを手にすることができたのだ。そこで話しあう事からより面白く、深い構想を生むことができたと思う。」

1	授業全体の説明、学生の特性調査	
2	チームづくり	
3	理想を描く・学ぶ意味をもつ	
4	「理想の未来の学校」	
5		
6	学校説明会	ショートレポート
7		
8	説得性を高める	ショートレポート
9	学習指導設計と学習評価設計	
10	「多様な学習者が主体的に読解力を	ショートレポート
11	高めるためには？」	
12		チームレポート
13	授業参観	
14	先輩のレポートから学ぶ	最終レポート
15	最終成果の相互評価	



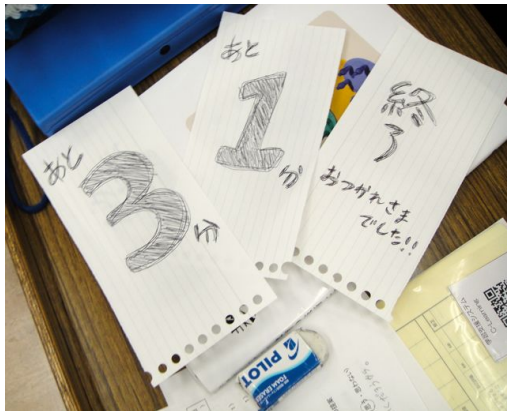
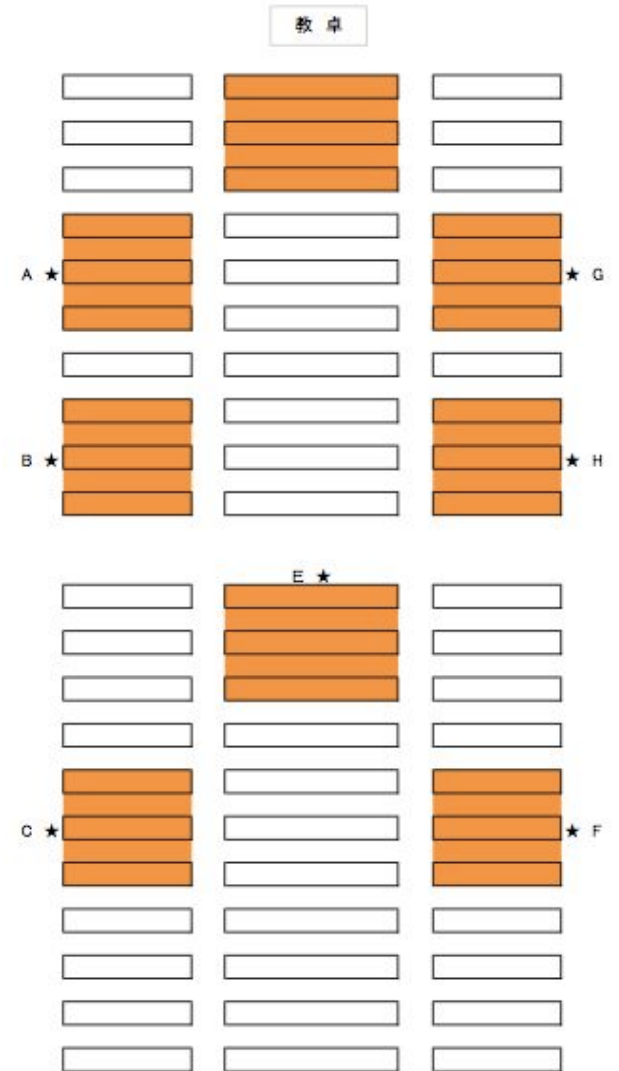
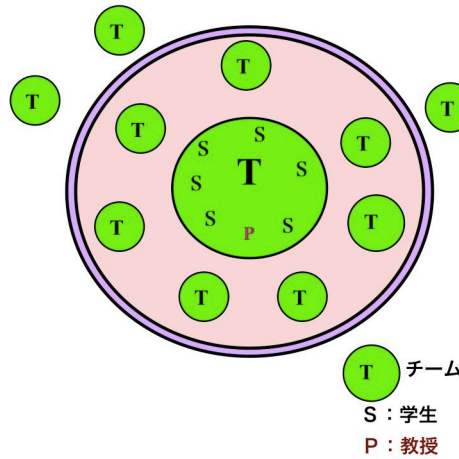
# 相互評価 挑戦と自信

1	授業全体の説明、学生の特性調査	
2	チームづくり	
3	理想を描く・学ぶ意味をもつ	
4	「理想の未来の学校」	
5		
6	学校説明会	ショートレポート
7		
8	説得性を高める	ショートレポート
9	学習指導設計と学習評価設計	
10	「多様な学習者が主体的に読解力を	ショートレポート
11	高めるためには？」	
12		チームレポート
13	授業参観	
14	先輩のレポートから学ぶ	最終レポート
15	最終成果の相互評価	

# 相互評価 挑戦と自信



失敗から学ぶ  
リベンジできる



# 相互評価 挑戦と自信



毎回の代表者によるチーム間の情報交換により格差の解消を目指す

# 相互評価 挑戦と自信

## 役割のチェック

チーム内で役割が果たせているか  
どのような関わり方でよくなるのかを  
定期的にお互いに確認する

**チーム学習実践力の評価シート**

司会係用(                      ) 司会係氏名(                      ) チーム番号(                      )

やりかた  
① 上記の役割に相当する担当者氏名を記入してください。  
② 「自己評価」列にそれぞれの実践力の状態を自分で評価して、相当する数値を記入してください。  
③ チームメンバー2人から評価してもらい、その数値を見て修正した点数を「修正」列に記入してください。  
**(4・・・よくできた 3・・・できた 2・・・あまりできなかった 1・・・全然できなかった)**

**5 週目の評価**

実践力	自己評価	名前	名前	修正
メンバーの発言を促すことができる				
メンバーの多様な特徴に応じた活動方法を考えて提案することができる				
活動時間の目安をたてて、時間を有効に使うことができる				
自分の事情を押し通す前に相手に自分を受け入れてくれるように、「ありがとう」と「ごめんなさい」と挨拶を自分から言うことができる				
人間関係のトラブルを軽視したり他人任せにしたりせず、自分から良い環境づくりのために働きかけることができる				

**7 週目の評価**

実践力	自己評価	名前	名前	修正
メンバーの発言を促すことができる				
メンバーの多様な特徴に応じた活動方法を考えて提案することができる				
活動時間の目安をたてて、時間を有効に使うことができる				
自分の事情を押し通す前に相手に自分を受け入れてくれるように、「ありがとう」と「ごめんなさい」と挨拶を自分から言うことができる				
人間関係のトラブルを軽視したり他人任せにしたりせず、自分から良い環境づくりのために働きかけることができる				

**10 週目の評価**

実践力	自己評価	名前	名前	修正
メンバーの発言を促すことができる				
メンバーの多様な特徴に応じた活動方法を考えて提案することができる				
活動時間の目安をたてて、時間を有効に使うことができる				
自分の事情を押し通す前に相手に自分を受け入れてくれるように、「ありがとう」と「ごめんなさい」と挨拶を自分から言うことができる				
人間関係のトラブルを軽視したり他人任せにしたりせず、自分から良い環境づくりのために働きかけることができる				

**最終週の評価**

実践力	自己評価	名前	名前	修正
メンバーの発言を促すことができる				
メンバーの多様な特徴に応じた活動方法を考えて提案することができる				
活動時間の目安をたてて、時間を有効に使うことができる				
自分の事情を押し通す前に相手に自分を受け入れてくれるように、「ありがとう」と「ごめんなさい」と挨拶を自分から言うことができる				
人間関係のトラブルを軽視したり他人任せにしたりせず、自分から良い環境づくりのために働きかけることができる				

**最終修正値合計(最高20点)**

※この数値が獲得した「チーム学習実践力」として成績の一部になります

**点**

# 相互評価 挑戦と自信

ショートレポートの相互評価を経て再構成したものが最終レポート

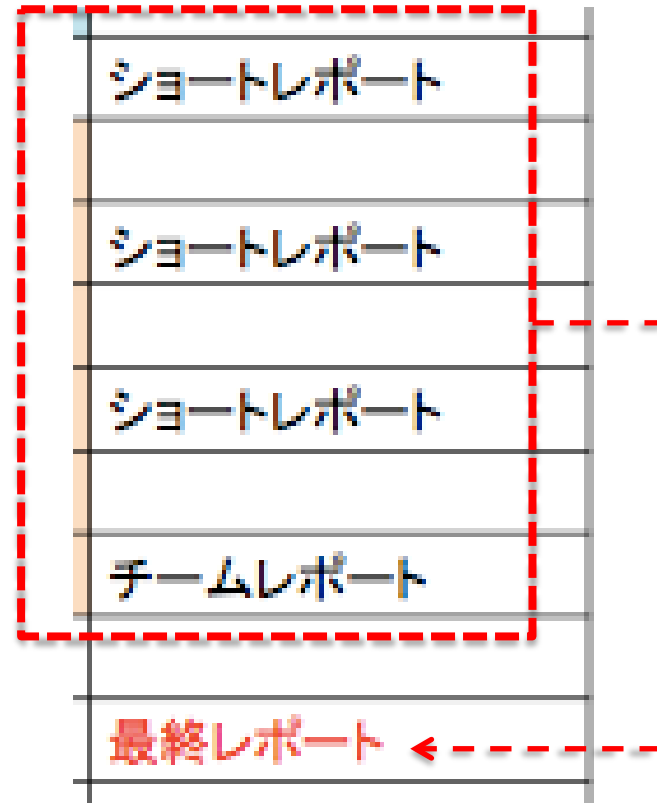
提出不要 持ち帰ってレポートの修正に使用 09-1-1

## 私のレポートを評価してください

●● 提案としてのショートレポートを次の項目に沿って評価してもらいましょう。

チーム番号( ) 月 日( ) レポート執筆者( )

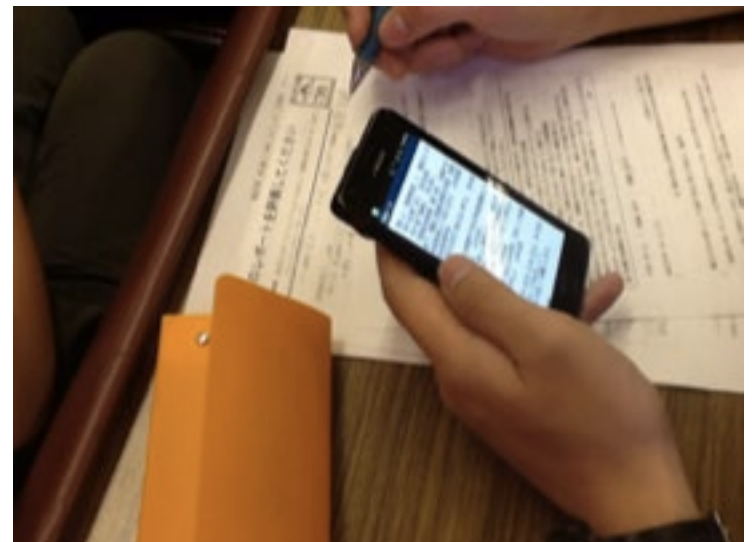
評価者氏名1( )	★誤字脱字等は赤ペンなどでレポートに直接指摘しましょう
① 項目D・Eの内容が、項目A・Bをふまえた構想になっていますか	
= 多様性に対応できているか、学習者が主体的に学べるものか	(はい・いいえ)
コメント:	
② 参考文献が正しく記述されていますか (ガイドブック参照)	(はい・いいえ)
コメント:	
③ レイアウトは読みやすく配慮されていますか	(はい・いいえ)
コメント:	
④ その他:	
評価者氏名2( )	★誤字脱字等は赤ペンなどでレポートに直接指摘しましょう
① 項目D・Eの内容が、項目A・Bをふまえた構想になっていますか	
= 多様性に対応できているか、学習者が主体的に学べるものか	(はい・いいえ)
コメント:	
② 参考文献が正しく記述されていますか (ガイドブック参照)	(はい・いいえ)
コメント:	
③ レイアウトは読みやすく配慮されていますか	(はい・いいえ)
コメント:	
④ その他:	
評価者氏名3( )	★誤字脱字等は赤ペンなどでレポートに直接指摘しましょう
① 項目D・Eの内容が、項目A・Bをふまえた構想になっていますか	
= 多様性に対応できているか、学習者が主体的に学べるものか	(はい・いいえ)
コメント:	
② 参考文献が正しく記述されていますか (ガイドブック参照)	(はい・いいえ)
コメント:	
③ レイアウトは読みやすく配慮されていますか	(はい・いいえ)
コメント:	
④ その他:	
評価者氏名4( )	★誤字脱字等は赤ペンなどでレポートに直接指摘しましょう
① 項目D・Eの内容が、項目A・Bをふまえた構想になっていますか	
= 多様性に対応できているか、学習者が主体的に学べるものか	(はい・いいえ)
コメント:	
② 参考文献が正しく記述されていますか (ガイドブック参照)	(はい・いいえ)
コメント:	
③ レイアウトは読みやすく配慮されていますか	(はい・いいえ)
コメント:	
④ その他:	



# 相互評価 挑戦と自信



基本はレポートを提出した後  
印刷してきて読み合いますが  
最近ではタブレットやスマートホンで  
読み合っている様子もみられます。  
ただし、誤字脱字の指摘が難しいところ  
が課題です。



# 相互評価 挑戦と自信

## レポートより

「レポートに関しても最初の授業で最終レポートが枚数が10枚以上と聞いたときは絶対に無理だと感じていました。しかし、ショートレポートを作成することによって、この最終レポートを作成するときにはすでに10枚近くなっており、最初に無理だと思っていたことが嘘のように感じられました。」

# 学ぶ指標

## ■ 学習過程の点数 (合計 60 点)

- ・ 出席点・・20 点 (カウントの方法は 10 週目前後にアンケートをとり、その結果で決定します)  
※大学の規定により実習、部活の公式戦、忌引、診断書発行の病欠以外の 5 回以上の欠席は単位不認定です。
- ・ 提出点・・20 点  
ショートレポート(2 点)×3 回、チームレポート(2 点)、最終レポートチェック点(2 点)  
最終レポート A4 用紙 **10-15 枚**(10 点)※ただし 10 枚未満の場合 1 枚につき 1 点減点
- ・ チーム学習実践力・・20 点 (役割毎に設けられており、チーム内の相互評価で決定します)

## ■ 最終レポートの点数 (合計 40 点)

- ・ レポートレベルの申告の査定 0 点～30 点

A レベル(20 点) 更に優+5 点, 劣-5 点	教科書と講義中に使用した文献と配布資料以外で自分で探した 2 冊以上の文献を参考、あるいは引用し、文中と最終ページに文献情報を示している。 文中：苅谷(2002)が～と指摘しているように・・・～という懸念がある(苅谷, 2002) 最終ページ：苅谷剛彦ほか『学力低下の実態』岩波書店, 2002 年, pp. 27-29 <b>さらに特別加点(+5 点)の挑戦</b> ：自分のレポートの要約を 400 字以内で表紙にまとめ、1 章から 3 章までを一貫する主張を述べる事ができている。 (要約が伝わる場合+5 点, 伝わらない場合は特別加点なし)
B レベル(10 点) 更に優+5 点, 劣-5 点	教科書と講義中に使用した文献と配布資料を使ってまとめる。文献の示し方はレベル A と同じ。
C レベル(0 点) 更に 優+5 点	全く資料を用いていないが、とりあえず出す。

★各レベルの条件を満たしていなければ申告に妥当性が無かったものとして相当するレベルに下げてから再審査する。

- ・ 5 観点査定 0 点～+5 点

申告レベルの同じレポートを比べて、下記の 5 観点においてすぐれているものに+1 点を加点する。

着想	新しい発想や自分たちで現在の教育問題をとらえて課題を設定している。
構成	レポートの全体を見通して各章が関連付けられている。
文章	自分の言葉で書かれており、参考資料や文献のそのままの写しでない
資料	統計、実態その他、教育に関する資料を利用して展開している
レイアウト	文章のレイアウトが読みやすいように配慮されている。

- ・ 公開点 0 点～+5 点

後輩への公開 (a) 実名で公開可能：2 点 (b) 匿名で公開可能：1 点 (c) 非公開：0 点

Web 上の公開 (a) 実名で公開可能：3 点 (b) 匿名で公開可能：2 点 (c) 非公開：0 点



# レポートの表紙

## レベルを宣言する

2012 年度秋学期教育方法学  
最終レポート

チーム番号：

A レベル特別加点

このレポートが A レベル特別加点であると判断した理由

主張を明確にすることと一貫性を持たせることを重視し、かつ見やすいレポートを作成することができたと思う。アブストラクトにおいて、全体の概要をまとめ、分かりやすいレポートを目指すことができたと思うため、A レベル特別加点であると判断した。

公開同意書

後輩への公開について (a)

web 上での公開について (a)

# 1回の授業の流れ

# 1回の流れ

ゴールを全体で確認



音読確認係がガイドブックを音読して手順を確認



チーム学習



補足説明



学習報告係のミーティング



次週までの打ち合せをして解散

# 学習ガイドブック

01-0-1

## 学習ガイドブック 第2版 教育の技術と方法

チームによる問題解決のために

西之園晴夫・宮田 仁・望月紫帆 著



ミネルヴァ書局

### Lesson

## 学習全体のテーマを知ろう

01

#### 目標

- ・この授業の学習全体のテーマと展開を知る
- ・主体的な学習を進めるためのチーム学習の意義を知る

#### 読む 学習の概要

巻頭：この授業は普通の授業とは違って、講義を聴いたり、決まった答えを導くための課題を演習したりするというものではなく、学友と協力しながら主体的に学習し、さらにお互いに評価しあうことによって教育実践に求められる基礎的能力を向上することを目的としています。

#### 読む 学習の方法と評価と最終成果

01-1 教育問題はますます複雑になっており、さらに地域社会との関係も重要になってきているため、チームで問題に取り組む必要性が高まっています。グループ学習ではなくチーム学習をする意味、それと連動した評価の考え方、さらに評価の対象としてどのような成果をまとめるのかということをよく理解しておきましょう。

#### 確認する チームを構成している役割を知る

01-2 チームとは、明確な役割を担った者同士の集団であり、グループではありません。あなたはどのような役割を担いますか。希望の役割を「私のプロフィール」に記入しましょう。

#### 確認する 自分のコミュニケーションタイプを知る

01-3 他人と気が合う、合わないというのは、コミュニケーションに対する価値観の違いが影響していることもあります。他の人と協力するときは、自分のコミュニケーションタイプと相手のタイプを知っておくことで、より柔軟にお互いを受け入れることができるでしょう。株式会社コーチ Aが開発した簡易テストでコミュニケーションタイプを確認し、その結果を「私のプロフィール」に記入しましょう。



#### 「私のプロフィール」を提出する

提出 01-4 「私のプロフィール」はチーム作りの資料とする他に、チームに分かれたときの相互理解の資料となります。左で示した番号の資料に書き込んで提出してください。

#### 宿題 「個性」と「我」はどのように違うのかを考える

01-5 人と協力するときに欠かせないのが「個性」と「我」の使い分けです。次週までに単語の定義を調査したり、よくある事例を比較する中で「個性」と「我」の違いを理解したりしておきましょう。次週チームで交換してお互いの考えを確認し合います。

# 時間外の学習をつなぐ 学習支援システム

## 掲示板

- ・チーム内でファイル共有
- ・他チームと進捗状況の確認
- ・成果を蓄積してレポートに活用
- ・連絡網

## レポートの提出

アンケートによる振り返りやリクエスト

教材

小テスト



C-learning.jpより

# チーム内での蓄積と チームを超えた情報交換

## チーム内

全員必読!!	発表原稿.docx (21.6KB)
(無題)	(19.9KB)
9-1	方法学 9 .docx (18KB)
9-1	
SR 2	(20.2KB)
前回の授業でまとめたこと について	
レポートの項目Dについて	
教科書：ショートレポート2の 内容：項目Cについて	
チーム発表の評価まとめ	
日 教育格差について	
学力低下について	
日 格差・秩序不安と教育まとめ	
学力低下が国を減ぼす	学力低下が国を減ぼす 要約.docx (15.6KB)
「読解力」を読んでのまとめ	「読解力」まとめ.docx (13KB)
日 保護者懇談会の感想用紙	
日 報告	
興味深い取り組みをしている 学校	

## レポートの 相互チェック や文献購読

## チーム間

### Lesson06-

1,本日の目標「学校説明会をしよう」達成度100%  
学習概要 前回までにまとめたことを、模造紙等を使って発表する。

### 2.メンバー各々の学習状況

- くん・・・発表で司会進行をしてくれた。
- くん・・・積極的に集まって発表の準備し、質問にも丁寧に受け答えをしてくれた。
- くん・・・発表のときの評価の紙の集計をしてくれた。
- くん・・・発表のときに配布する資料を作成してくれた。
- ん・・・発表のときに、はっきりした声とスピードを意識して発表をしてくれた。
- ・・・模造紙のつくるときにイラストや題字をかいた。

3. 困ったこととそれを解決する手立てor 工夫したこと or 他のチームから学んだこと  
本番までに全員が集まるができなかった。  
事前準備の段階でもう少し工夫できたと思うので、  
次からは時間に余裕を持って行動出来るようにしたい。

### 4.次回の予定と次回までに取り組んでおくこと

ショートレポートを完成させ、各自で提出すること。

次の授業のページを読んでおくこと。

提出したショートレポートを印刷して次の授業のときに持参すること。

### 5 メンバーにメッセージ

発表お疲れさまでした！文化祭の準備で忙しいなかの発表だったけど、  
とても中身のある発表になったと思います。  
まだまだ大変だと思いますがショートレポート忘れないようにお願いします！

## 学習の進捗 状況や問題 解決の方法、 次回までの 課題の共有

# 身近なツールと学習支援システム



<http://line.naver.jp/ja/>



<https://www.facebook.com/>

manaba

<http://manaba.jp/ja/>



<http://c-learning.jp/>

学生さんにとって身近なツール例	学校が提供する学習支援システム例
<ul style="list-style-type: none"><li>・自分たちで管理できる</li><li>・使い慣れているので説明不要</li><li>・外部(専門家)との関わりももてる</li><li>・日常を共有し親近感を高める</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・交流が受講者生同士に限られるため安心して使う学生さんもいる</li><li>・レポートの提出ができる</li><li>・教材や他チームの情報を獲得できる</li></ul>

# 後輩へのメッセージ



# ●後輩への貢献●

## レポートより

「苦勞は買ってでもせよという言葉があるがまさにそのとおりで、この授業を終えた後で得られるものは大きい。自分の弱点を見つけるいい機会になるだろう。まずは自分から積極的なコミュニケーションを!!」

# ●後輩への貢献●

## レポートより

「問題の答えは人の数だけある。そう考えてぜひこの講義に取り組んでほしい。また、そのように、いろいろな意見や考えがあるので自分の班の人たちだけでなく、他の班の進行状況などを参考にさせてもらうのも一つの充実した授業をおくる方法である。」

# ●後輩への貢献●

## レポートより

「後輩のみなさん！佛教大学の「教育方法学」は恐ろしく大変です。課題も多く責任もついてきます。けれどその分得るものは大きいです。私が授業の終わりに感じたことは、「忙しければ忙しいほどそれは充実しているといえるのではないか」ということです。そして私は、この授業で考えてきた“主体的な学習”が、今考えると、この授業を通して自分たちがやってきたではないか。と思えるのです。それでは、終わった後に得るものを楽しみに、「教育方法学」を頑張ってください。」

# ●後輩への貢献●

- 授業中に後輩にサポートするために「もぐり」として参加する元受講生さんもいます。
- もぐりの元受講生さんには、授業の学習目標を提示し、授業を観察してもらい、その目標をより達成しやすくするために必要な情報をフィードバックしてもらっています。

# さらに挑戦したいこと

年々、初対面の学生とコミュニケーションをとることに苦手意識をもつ学生が増えているのか、初回のオリエンテーションでの不安感が高くなっているように感じられます（徐々に払拭されますが）。導入時の不安感を「楽しみ」に変えられるように工夫していきたいです。